

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々(1階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32		
自己評価作成日	令和5年10月27日	評価結果市町村受理日	令和6年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Ijvsvocd=2170600486-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Ijvsvocd=2170600486-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」を理念に掲げ、第二の家族として心温かいホームを目指しています。コロナ禍においても感染リスクを最小限に防いだ面会方法を継続し、現在は居室内への入室や外出も再開、ご家族様とゆったりとした時間を過ごして頂いています。身体拘束廃止委員会と虐待委員会を立ち上げ、事例検討や外部研修、ケアの見直しにも力を入れています。また、利用者様の出来る力の見直しを行い、活動参加の幅を広げる取り組みを始めています。毎月の百々便りを改良し、日々の暮らしの日記と写真を毎月郵送、ご家族様にも様子や楽しさが伝わって頂けるように工夫して取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の同業者と運営推進会議を合同で行う事もあり、協働しながら利用者サービスの改善に取り組んでいる。コロナ禍で活動制限せざるを得ない期間もあったが、それらをプラスに活かせるよう、利用者一人ひとりができること、やりたいことを再分析し、少しずつ活動の幅を広げながら、利用者の尊厳を守る支援について見直している。管理者は、職員の意見や要望、提案等を検討しながら、職場環境の充実にも努めている。また、職員教育にも力を入れており、学ぶ機会を確保しながら資格取得や研修費用の援助等を行うことで、ケアの資質向上と共に、より良い利用者支援が行えるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている(参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(1階)

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームに掲示し常に意識出来るようにしている。ご利用者もご家族も第二の家庭として気兼ねなく穏やかに過ごして頂けるように心温かい支援を目指し取り組んでいる。	理念をスタッフルームに掲示し、毎日、ミーティングでケアの振り返りを行いながら、理念に基づいたケアの実践に繋げている。事業所全体及びフロア毎に、各職員の月間目標を立て、理念を共有しながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域活動に参加。地域のサロンへ参加し、近隣住民の方との交流を図っている。車の乗り降りもサポートして下さる。サロンのチラシに介護でお困りの方の相談窓口として百々を載せて頂き、一層地域との交流がもてている。	秋祭りや防災訓練などの自治会活動、社協が開催する認知症カフェや地域のサロン等に利用者も参加し、交流できるよう支援している。事業所で行っている介護相談事業については、サロンのチラシに掲載してもらい、地域との交流ができるよう取り組んでいる。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や入居状況の他、事故報告と対策、感染対策や防災への取り組みについての報告や助言を頂いている。年2回の町の合同運営推進会議を実施し情報交換や防災の問題点など課題を検討し横のつながりとして協力体制を築いている。	家族、自治会長、民生委員、行政等が参加している。課題解決に向けて話し合い、サービス向上の協力体制が整っている。2年前に発足した地域合同運営推進会議は、グループホーム・特養・デイサービス等で年2回開催しており、情報交換をしながら、地域の特性を活かしたサービス提供に取り組んでいる。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	出来るだけ直接対面で報告や相談を行い助言を頂いたり、協力関係を築いている。	町役場の担当者とは、可能な限り対面にて報告・相談を行い、助言を得ながら協力関係を築いている。利用者支援について困難事例があった場合は、地域包括支援センターの協力を得ながら、適切な支援が行えるよう努めている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止・虐待防止委員会を開催し、勉強会や事例検討にてスタッフ目線になっていないか、ご本人はどう思っているのかなど日々のケアの振り返りを行い、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会は3カ月毎に開催している。法人としても、委員会を開催している。身体拘束についての外部研修は、受講した委員が伝達講習を行ない、全職員で共有している。委員会で、各利用者の身体拘束に繋がる「もしかして」を分析し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待グレーゾーン、不適切ケアについての振り返りアンケートを全職員に実施して勉強会を開催、虐待の一手手前の不適切ケアについて学ぶ。また委員会にて外部研修参加や職員への発信、アンガーマネジメントについて学び取り組んでいる。	虐待防止委員会は、身体拘束廃止委員会と併せて行っている。合同委員会の中で、ヒヤリハット・事故、スピーチロック等、不適切ケアを行っていないかを話し合い、様々な事例についての対応方法を検討している。また、アンガーマネジメント研修で学びながら、虐待防止の徹底に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当される方が見えないため利用していない。よきタイミングで学ぶ機会をも行けていきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず来所して頂き、ありのままのホームを見て頂いている。ご本人も出来るだけ来所して頂き難しい時は事前に面談を行っている。ホームのご説明以外にご本人、ご家族の質問に細かくお答えし、お互い歩み寄りご納得の上契約を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中でご利用者の要望を把握し、ご家族に伝えるようにしている。またご家族からホームへのご意見も職員に伝えて対応している。また毎日の生活の様子やご本人の言葉を載せた一日一行の「暮らしの日記」と写真を郵送している。	利用者の要望は日々の関わりの中で把握し、家族の意見や要望は、電話や面会時に聴いている。「もも便り」には、ホームの活動状況や予定を分かり易く掲載し、利用者の様子や言葉を1日1行にまとめた「暮らしの日記」も毎月、家族に郵送している。意見箱を設置し、届いた意見を運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案や意見を言いやすい環境作りに努め、出された意見を検討、反映している。重度化の方の快適な入浴を実現するためにシャワーミストやリクライニングチェアを購入、より負担のない移乗方法を学びスライドボードやスライドシートを活用。	職員と管理者は相談しやすい関係にある。職員会議では活発な意見交換が行われ、検討しながら運営に反映させている。ミスト式チェア、リフトやスライドボード等の福祉用具や設備の導入は、全職員で意見交換した上で購入を決定している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	就業規則をファイリングし、いつでも閲覧できるようにしている。希望休の受け入れや家庭の状況に合わせた勤務体制、有給休暇の推奨など働きやすい職場作りに努めている。	スタッフルームがあり、交代で休憩を確保できる環境である。年1回、代表や本社担当者、管理者が職員面談を行っており、職員個々のワーク・ライフ・バランスに配慮しながら、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修費補助を取り入れ働きながら受講しやすい取り組みを行っている。アンガーマネジメントやスピーチロック、災害研修など外部研修の機会を設けている。また毎月テーマを決めて内部研修を行い繰り返し学ぶことを大切にしている。	事業所で挙がってきた課題については、タイムリーにテーマとして取り上げ、月1回職員研修を実施している。職員の資格取得を奨励し、研修費用などの支援も行っている。受講者が、他の職員に伝達講習を行うことで、ホーム全体のレベルアップを図っている。	管理者は、外国籍職員の教育と共に、全職員に向けての介護技術や認知症ケアの基礎から応用についての再学習の機会にしたいと考えている。今後も、ケアの向上と共に、指導力も養えるよう、計画的な職員教育にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	当事業所の他施設と3か月ごとに合同会議があり、意見交換や情報共有の場としている。また町内の同業者とも合同運営推進会議以外に地域連携に参加したり、防災について一緒に考える場を設けて意見交換や助言を頂いている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が出来ることを業務として行っていることに気づき話し合い、一人一人に視点を置き出来ること、やりがいにつながる支援を考え一緒に取り組んでいる。掃除、調理、盛り付け、台拭きなど活躍できる場が増えたと感じている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを表しやすい関係作りに努めている。マスク着用が続く中、笑顔を大切にし、意思表示が難しいご利用者にも声掛けを多くし、表情や顔色などから思いが汲み取れるよう気づきや情報共有を図っている。	日々の関わりの中で、利用者の思いや希望を聴きながら、心地良く生活できるよう支援している。意思表示が困難な利用者には、まばたき・うなずきなど、表情を見ながら思いを汲み取り、支援に役立てている。利用者が自己決定しやすい声掛けに努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月介護計画の振り返りを行っている。ケア面や医療面での意見も反映させている。ご家族の意向は面会時に聞き取りをし、変更部分も説明している。ご利用者に変化があれば臨時で話し合い、対策をたてて数日間の実施と評価を行っている。	介護計画を確認しながら、日々のケアを実施している。介護計画作りは、会議の前に医師や家族の意見、意向や要望などを収集し、話し合いながら計画に反映させている。また、毎月、職員ミーティングでモニタリングを行い、計画の見直し等で適切なケアの実践に繋げている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット入力に変更し使いこなせるようになり、以前と同じように細かく記録入力出来ている。変更部分や処置方法などは連絡ノートを活用し、勤務に入る前に把握した上で入るようにしている。	電子カルテを導入したことで、記録の効率が良くなったが、排泄記録と体温表は、紙の記録の方が全利用者の状況把握と共有がしやすい為、紙での記録も併用している。職員は、介護計画や個別記録、申し送りノートを確認し、利用者の状況を把握してから業務に入ることを習慣にしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得ながら必要な支援を取り入れるようにしている。往診への切り替えや病院変更、身内による居室での散髪、歯科往診や訪問マッサージも出来るだけ要望に対応している。ご家族の代わりに往診の支払いも代行している。	音楽療法や己書など、外部講師の協力を得て、新しいレクリエーション等を行っている。家族の都合や希望を受け止め、面会を22時まで延長するなど、柔軟に対応している。地域のグループホーム、特養、デイサービス等、6事業所で地域合同運営推進会議を発足し、話し合いながら協働している。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ5類になり外出を開始、地域のサロンへも参加させて頂き地域の方との交流の場を設けている。また、屋内に留まらずお散歩や外出も行い楽しみな生活をの支援に努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時にご説明しご利用者とご家族で自由に決めて頂いている。提携医の受診は職員が対応し、提携以外の通院はご家族で対応をお願いしている。病院の変更や状態に応じて身障の申請、往診の切り替えも柔軟に行っている。	協力医への受診は事業所に対応し、かかりつけ医や継続通院が必要な専門医への受診は、家族の協力を得ている。家族の都合がつかない場合や緊急時には、職員が適宜対応している。かかりつけ医から協力医、通院から往診への変更などがある場合には切り替えのサポートを行っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーを早急に作成しスムーズに施設での様子が伝わるように情報提供を行っている。退院時もカンファレンスに参加しスムーズに退院後の生活が送れるように情報共有に努めている。	入院時にはサマリーを作成、病院に提供し入院のサポートを行っている。退院時カンファレンスには管理者が参加し、利用者がスムーズに退院後の生活に戻れるよう支援し、家族の安心にも繋げている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた話し合いは段階的にご家族と行っている。また看取りの勉強会も行い予測される変化や観察ポイントを学び日々の状態変化をより細かく共有できている。看取り後は必ず振り返りと職員の心のケアを行っている。	入居時に、重度化や終末期に向けた事業所の方針について説明し同意を得ているが、利用者や家族の状況に合わせて、その都度、話し合いながら対応している。看取り研修、看取り後のケアの振り返り、職員の心のケアなどを行いながら、さらなる良質なケアを提供できるよう取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署による心肺蘇生法の研修を実施、急変に備えて学ぶ機会を定期的に行っている。事故や怪我はすぐに看護師に連絡とれる体制が整っており、指示を受けながら落ち着いて対応出来るように努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施、繰り返すことにより災害時の対応を再確認している。BCP作成で見えてきた課題にも一つずつ取り組み、水害想定訓練ではご利用者避難誘導後の動きを訓練として開始、職員で新たな課題を検討し対策を考えていきたい。	年2回の消防訓練や、地域の防災訓練にも参加し協力体制を築いている。自治会長から、過去の地域災害や状況等を聞き、対策に活かしている。他施設との合同運営推進会議で防災対策委員会を発足し、防災士の講義も受けている。各事業所の状況に応じた防災対策の改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出勤時には一人一人に挨拶をしてからケア業務に入るようにし、各階で毎月目標を掲げ申し送りで読み上げて一日の始まりに再確認できるようにしている。入浴やトイレ時、居室への入室時などプライバシーと羞恥心に配慮した支援に努めている。	職員は、出勤時に利用者に挨拶してから、業務を開始している。接遇やプライバシー保護の研修等でケアを振り返り、学びを重ねながら、利用者への適切な言葉遣いと対応を心がけている。入浴やトイレ介助時は、特に羞恥心に配慮し、誇りを損ねない対応に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者がその日の気分や体調によって入浴や休息など自由に自己決定することを尊重している。また意思表示が乏しい方は聞き方を工夫し選択しやすいように働きかけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアや居室、ソファなどその日のご本人の過ごしたい居場所を優先した支援に努めている。また、職員目線や職員都合にならないように、毎月の会議で見直しをしたり、ご利用者の視点に立って考えることを大切にしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ5類になり、ケアの見直しを行いご利用者の出来る力ややりたいことに視点を置いた。現在はテーブル拭きや調理活動、各階へのおつかい、盛り付け、お茶入れ、お盆、お椀拭きなど活躍の場を広げている。	管理者が食材の買い出しを行い、職員が調理を担当している。利用者も、食事の準備・片付けに参加できるよう環境を整えている。感染対策の制限解除により、利用者と職員が同席での食事を再開している。外食や好みを取り入れるなど、食べる楽しみが持てるよう支援している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態やその日の希望に添ってお粥や刻み食、トロミの使用を行っている。食べられるペースがゆっくりな方も席の配置を工夫し、遠慮なくご自分のペースでお食事が出来るように支援している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を継続。治療以外にもケアやアドバイスを受けて、義歯の不具合にも早期に対応出来ている。ケアの報告は歯科の先生から直接ご家族へ連絡を入れて頂いている。毎年無料検診も実施。	口腔内無料検診が毎年行われている。治療や口腔ケアを継続できるよう、訪問診療を希望する利用者が多い。義歯不具合があった場合は、早期対応により、口腔状態も良好になっている。歯科衛生士の指導とケアを、日々の口腔内ケアに活かしている。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にしており、ご利用者の状態によっては二人介助で支援している。パットはご本人の肌の状態や尿量、使いやすさや経済負担を考えて選択し定期的に見直しを行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回を基本に籠を渡し一緒に着替えを準備、気分によっては延期で臨機応変に対応している。介護度が重い方の快適な入浴を職員で話し合い、リクライニングチェアとミストタイプのシャワーチェアを購入、看取りの方にも入浴支援を実施。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり過ごしたい場所で思い思いに過ごされている。座っている時間が長い方には一緒にリハビリ歩行をしたり、負担がないソファに移動して頂いている。午睡も自由ですがレクリエーションの時間には声掛けし寝すぎないように対応している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットは薬局にセットしたものを配達してもらう方法に変更することでセットミスを防ぎ、毎日のセットはダブルチェックをし、服用時にはご本人の前で名前、日付、時間を口に出して確認することを徹底し誤薬に気を付けて取り組んでいる。	薬局から、利用者個々の薬剤がセットされて届いている。管理者は、薬効や服薬方法など、薬剤師とメールなどで連絡を取り合いながら薬剤管理を行い、情報を職員と共有している。服薬は、ダブルチェックを行い誤薬防止に取り組んでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の出来ること、好きなこと、やりたいことを考え、業務を見直し。一緒に掃除をしたり食事を作ったり、盛り付けやテーブル拭きなど声掛けをすることで一緒に活動する機会が増え始め、活気ある生活支援に日々取り組んでいる。	コロナ禍の活動制限期間の中で、利用者が行えること、やりたいことを洗い出し、活動しやすいよう環境を整え支援している。その結果、利用者はレク以外にも、掃除、お椀やお盆拭き、洗濯物干しなど、生活の中で職員と共に積極的に活動することが増えている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者の希望に添って一緒に草抜きをしたり、玄関外のお花の水やりをし自然に触れ合う時間を設けている。また、10月、11月と外食支援を実施したり、毎月の地域のサロンへ参加し地域の方との交流を図っている。	インフルエンザやコロナ感染症の流行状況を把握しながら、外出支援に取り組んでいる。天気が良い時には、草取りや花の水やりをしたり、近隣を散歩している。また、サロンでの地域交流や外食支援など、できる限り、利用者の意向や希望を叶えられるよう支援に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については契約時にご説明しご本人の思いを尊重している。ご本人管理となるため金額は多くならないようお願いしている。施設で使うパットや散髪代、受診代などはこちらで立て替えている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時には職員が電話をかけご家族とお話しが出来るようにしている。また、ご家族からの電話はいつでも対応している。携帯電話を持って見える方も1名みえる。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いすの方が通りやすいようにテーブルや物の配置を工夫。時々玄関外でおやつを食べたり、懐かしいシャボン玉を楽しまれる。ご利用者の作品作りには季節を感じられる物を選択し、壁の飾りつけも一緒にの行い会話のきっかけになっている。	廊下やリビングなどの共用部分は、天井も高く大きな窓から明るい陽射しが入る。利用者が安心して移動ができ、活動できる広さもある。利用者や訪問者が季節を感じられるよう、手作り作品の飾り方が工夫され、癒しとなる空間となっている。2階のベランダは広く、外気浴や気分転換ができるスペースとなっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の関係性や相性を見ながら席の配置を検討、年に数回席替えをし他の方との交流の機会を設けている。ソファが好きな方はソファへ。ソファに四人で楽しそうな談話されることもある。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットとベッドが備え付けてあり、使い慣れたお布団や家具、衣類などを持ち込んで頂いている。テレビの設置は自由、壁にはご家族の写真を飾られたり、一人ひとり個性ある居室となっている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯などの活動時にはいつでも椅子に座れるように対応。洗面所もその方の状態に応じて椅子を準備し、ご本人のペースで安全安楽に洗面できるように対応。シルバーカーの位置はもしもを想定し安全かつ拘束にならない角度で設置にしている。		



### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々(2階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32		
自己評価作成日	令和5年10月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:18)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームに掲示し常に意識出来るようにしている。ご利用者もご家族も第二の家庭として気兼ねなく穏やかに過ごして頂けるように心温かい支援を目指し取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域活動に参加。地域のサロンへ参加し、近隣住民の方との交流を図っている。車の乗り降りもサポートして下さる。サロンのチラシに介護でお困りの方の相談窓口として百々を載せて頂き、一層地域との交流がもてている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や入居状況の他、事故報告と対策、感染対策や防災への取り組みについての報告や助言を頂いている。年2回の町の合同運営推進会を実施し情報交換や防災の問題点など課題を検討し横のつながりとして協力体制を築いている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来るだけ直接対面で報告や相談を行い助言を頂いたり、協力関係を築いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止・虐待防止委員会を開催し、勉強会や事例検討にてスタッフ目線になっていないか、ご本人はどう思って見えるのかなど日々のケアの振り返りを行い、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待グレーゾーン、不適切ケアについての振り返りアンケートを全職員に実施して勉強会を開催、虐待の一步手前の不適切ケアについて学ぶ。また委員会にて外部研修参加や職員への発信、アンガーマネジメントについて学び取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当される方が見えないため利用していない。よきタイミングで学ぶ機会をも行けていきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず来所して頂き、ありのままのホームを見て頂いている。ご本人も出来るだけ来所して頂き難しい時は事前に面談を行っている。ホームのご説明以外にご本人、ご家族の質問に細かくお答えし、お互い歩み寄りご納得の上契約を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中でご利用者の要望を把握し、ご家族に伝えるようにしている。またご家族からホームへのご意見も職員に伝えて対応している。また毎日の生活の様子やご本人の言葉を載せた一日一行の「暮らしの日記」と写真を郵送している。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案や意見を言いやすい環境作りに努め、出された意見を検討、反映している。重度化の方の快適な入浴を実現するためにシャワーミストやリクライニングチェアを購入、より負担のない移乗方法を学びスライドボードやスライドシートを活用。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	就業規則をファイリングし、いつでも閲覧できるようにしている。希望休の受け入れや家庭の状況に合わせた勤務体制、有給休暇の推奨など働きやすい職場作りに努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修費補助を取り入れ働きながら受講しやすい取り組みを行っている。アンガーマネジメントやスピーチロック、災害研修など外部研修の機会を設けている。また毎月テーマを決めて内部研修を行い繰り返し学ぶことを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	当事業所の他施設と3か月ごとに合同会議があり、意見交換や情報共有の場としている。また町内の同業者とも合同運営推進会議以外に地域連携に参加したり、防災について一緒に考える場を設けて意見交換や助言を頂いている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が出来ることを業務として行っていることに気づき話し合い、一人一人に視点を置き出来ること、やりがいにつながる支援を考え一緒に取り組んでいる。掃除、調理、盛り付け、台拭きなど活躍できる場が増えたと感じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを表しやすい関係作りに努めている。マスク着用が続く中、笑顔を大切にし、意思表示が難しいご利用者にも声掛けを多くし、表情や顔きなどから思いが汲み取れるよう気づきや情報共有を図っている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月介護計画の振り返りを行っている。ケア面や医療面での意見も反映させている。ご家族の意向は面会時に聞き取りをし、変更部分も説明している。ご利用者に変化があれば臨時で話し合い、対策をたてて数日間の実施と評価を行っている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット入力に変更し使いこなせるようになり、以前と同じように細かく記録入力出来ている。変更部分や処置方法などは連絡ノートを活用し、勤務に入る前に把握した上で入るようにしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得ながら必要な支援を取り入れるようにしている。往診への切り替えや病院変更、身内による居室での散髪、歯科往診や訪問マッサージも出来るだけ要望に対応している。ご家族の代わりに往診の支払いも代行している。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ5類になり外出を開始、地域のサロンへも参加させて頂き地域の方との交流の場を設けている。また、屋内に留まらずお散歩や外出も行い楽しみな生活をの支援に努めている。タクシーの方の協力を得て馴染の教会への外出も実現している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時にご説明しご利用者とご家族で自由に決めて頂いている。提携医の受診は職員が対応し、提携以外の通院はご家族で対応をお願いしている。病院の変更や状態に応じて身障の申請、往診の切り替えも柔軟に行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリを早急に作成しスムーズに施設での様子が伝わるように情報提供を行っている。退院時もカンファレンスに参加しスムーズに退院後の生活が送れるように情報共有に努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた話し合いは段階的にご家族と行っている。また看取りの勉強会も行い予測される変化や観察ポイントを学び日々の状態変化をより細かく共有できている。看取り後は必ず振り返りと職員の心のケアを行っている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署による心肺蘇生法の研修を実施、急変に備えて学ぶ機会を定期的な設けている。事故や怪我はすぐに看護師に連絡とれる体制が整っており、指示を受けながら落ち着いて対応出来るように努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施、繰り返し行うことで災害時の対応を再確認している。BCP作成で見えてきた課題にも一つずつ取り組み、水害想定訓練ではご利用者避難誘導後の動きを訓練として開始、職員で新たな課題を検討し対策を考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出勤時には一人一人に挨拶をしてからケア業務に入るようにし、各階で毎月目標を掲げ申し送りを読み上げて一日の始まりに再確認できるようにしている。入浴やトイレ時、居室への入室時などプライバシーと羞恥心に配慮した支援に努めている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者がその日の気分や体調によって入浴や休息など自由に自己決定することを尊重している。また意思表示が乏しい方は聞き方を工夫し選択しやすいように働きかけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアーや居室、ソファなどその日のご本人の過ごしたい居場所を優先した支援に努めている。また、職員目線や職員都合にならないように、毎月の会議で見直しをしたり、ご利用者の視点に立って考えることを大切にしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が進まない方には毎食食べやすいように小さなおにぎりを提供したり、職員と一緒に食べることで楽しい食事時間になるように工夫している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態やその日の希望に添ってお粥や刻み食、トロミの使用を行っている。傾眠傾向な方の食事支援は無理はしないことを徹底し、覚醒されたタイミングでの支援を行うことで誤嚥しないケアに努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を継続。治療以外にもケアやアドバイスを受けたり、義歯の不具合にも早期に対応出来ている。ケアの報告は歯科の先生から直接ご家族へ連絡を入れて頂いている。毎年無料検診も実施。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にしており、ご利用者の状態によっては二人介助で支援している。パットはご本人の肌の状態や尿量、使いやすさや経済負担を考えて選択し定期的に見直しを行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回を基本に籠を渡し一緒に着替えを準備、気分によっては延期で臨機応変に対応している。介護度が重い方の快適な入浴を職員で話し合い、リクライニングチェアとミストタイプのシャワーチェアを購入、看取りの方にも入浴支援を実施。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり過ごしたい場所で思い思いに過ごされている。座っている時間が長い方には一緒にリハビリ歩行をしたり、負担がないソファに移動して頂いている。午睡も自由ですがレクリエーションの時間には声掛けし寝すぎないように対応している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットは薬局にセットしたものを配達してもらう方法に変更することでセットミスに防止。毎日のセットはダブルチェックをし、服用時にはご本人の前で名前、日付、時間を口に出して確認することを徹底し誤薬に気を付けて取り組んでいる。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の出来ること、好きなこと、やりたいことを考え、業務を見直し。一緒に掃除をしたり食事を作ったり、盛り付けやテーブル拭きなど声掛けをすることで一緒に活動する機会が増え始め、活気ある生活支援に日々取り組んでいる。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望に添って一緒に草抜きをしたり、玄関外のお花の水やりをし自然に触れ合う時間を設けている。また、10月、11月と外食支援を実施したり、毎月の地域のサロンへ参加し地域の方との交流を図っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については契約時にご説明しご本人の思いを尊重している。ご本人管理となるため金額は多くならないようお願いしている。施設で使うパットや散髪代、受診代などはこちらで立て替えている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時には職員が電話をかけご家族とお話しが出来るようにしている。また、ご家族からの電話はいつでも対応している。携帯電話を持って見える方も2名みえる。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いすの方が通りやすいようにテーブルや物の配置を工夫。ベランダで懐かしいシャボン玉を楽しまれる。ご利用者の作品作りには季節を感じられる物を選択し、壁の飾りつけも一緒にの行い会話のきっかけになっている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の関係性や相性を見ながら席の配置を検討、年に数回席替えをし他の方との交流の機会を設けている。ソファーが好きな方はソファーへ行かれたり好き場場所で過ごされている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットとベッドが備え付けてあり、使い慣れたお布団や家具、衣類などを持ち込んで頂いている。テレビの設置は自由、壁にはご家族の写真を飾られたり、一人ひとり個性ある居室となっている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは車いすの方でも行き来しやすい余裕のあるスペースを確保しており、行きたい場所へ自由に行けるようにしている。また1階への行き来も職員の見守りの元遊びに行かれている。		